

スマートSUVで 3倍広がる ライフスタイル

都会の道ではスタイリッシュに、
海、山、川ではひたすらタフに。
SUV(スポーツユーティリティーヴィークル)で
きて、どこへ出かけてみようか――。

文／編集部(P110-111)、吉田直志(P112-117)
写真／向後一志(P112-113)、湯浅立志(P114-115)

“SUV的” 生き方の すすめ。

清水国明氏インタビュー

しみず・くにあき◎1950年、
福井県生まれ。73年、フォーク
デュオ「あのねのね」でデ
ビュー。芸能界きってのアウト
ドア派として知られ、自然
体験イベントなどの活動
も多数。2003年に山梨県
富士河口湖町に移住し「森
と湖の楽園」を、14年には
瀬戸内の無人島を購入して
「海の楽園・ありが島」を開
園した。



複数の生活スタイルを
自由に移動する万能ビークル

芸能界での多彩な活躍とともに、釣り
やログハウスづくりなど、アウトドアライフ
の達人としても知られる清水国明さんの
信条は、ひとつの生活スタイルにこだわら
ない。多毛作人生だ。

芸能人としての生活と、無人島で自給
自足をめざす暮らし、河口湖畔の山小屋
での静かな暮らし。いくつもの生活を軽
快に渡り歩いていく。そんな生き方を支
えてきたのが、これまで乗ってきたクルマ
たちである。

現在の愛車はジープ・ラングラー。本
格的オフローダーだが、一般道のロングド
ライブも、まずフルサイズSUVだ。

「SUVみたいなクルマをすれば、生活の
幅や趣味の数がぐんと増えると思います

よ。家族での遊びもいろいろできる。天
井の高い家だと子どもがのびのび育つと
いうけど、クルマも同じでしょう(笑)」

福井県の九頭竜湖近くに生まれた清
水さんにとって、自然の中をクルマで走る
ことは、マダマダ前のことだった。

「林業をやっていた親父の仕事の手伝
いで、小学生のころから8トントラックを運
転してましたよ。林道を移動させるだけ
でしたが、楽しかったですね。免許をとっ
てからも、舗装路を走る方が珍しかった」

そんな生活が、芸能界へのデビュー
と同時に一変。一躍人気者になると、
フォード・マスタングやベンツなどの外車
を次々に乗り継いだ。ところが40代でア
ウトドアに関心をもちはじめると、興味を
もつ車種もオフローダーなどに変わった。
「ライフスタイルによって、クルマは変
わってくる。自分の生き方を表す名刺み
たいなものだよな」

現在、清水さんは仕事などの目的で
ジープで河口湖と都心を週に2、3回は
往復する。冬は、雪道を走ることも多い
のでSUVが頼りになる。

「ぼくの場合はパラレルワールドのよう
な人生を、クルマを使って常に移
動しているような感覚。自然に囲まれた
静かな世界と、都会の世界を自由に行き
来するためのツールがクルマ。だからSUV
がいいんじゃないかな」

30歳で突然バイクに乗りはじめ、40歳
で鈴鹿の8時間耐久レースを完走した清
水さん。今では「すべての欲望と無邪気
につきあっている。人生に屈服する。こ
はない」という確信がある。

「仲間をたくさんつくって、いろんな場所
に出かけて、たくさん感動する。人生は、
いくつ感動したかの勝負ですよ」
欲望にどん欲で多目的。清水さんのよ
うな人生の楽しみかたそのものが、実
に「SUV的」なのだった。



清水さんの愛車はジープ・ラン
グラー。アンリミテッドの限定車。
軍用車がルーツの本格オフロー
ド車だが、高速道路なども快適
に走行できるSUVでもある。